

- | | | |
|-------|---------------------------|-------------|
| ・開催日時 | ：2015年8月4日(火) | 10:00～11:00 |
| ・出席者 | ：代表取締役副社長(コーポレート本部長) 畑 佳秀 | |
| | コーポレート本部 広報 IR 部長 中島 茂 | |

【説明会補足追加事項】

(冒頭より)

・中部飼料株式会社との資本業務提携についての狙い協力体制を進化させ、以下の点に注力していく。

- ① 配合飼料の安定調達
- ② ブランド食肉の進化及びトレーサビリティの強化
- ③ 飼料に関する知識の蓄積

・豪州事業の為替効果(豪ドル対米ドルクロスレート)について前期1Q平均0.933が今期平均0.778の豪ドル安。第1Q営業利益8億円増益のうち27億円が為替による増益効果。

【質疑応答】

<食肉事業>

Q) 豪州事業の現況と今後の展開は?

A) 豪州国内の飼養頭数減によって生体の仕入れコストが上昇してきており、第2Q以降は厳しい状況になると予想している。

Q) 米州事業テキサスファームの養豚事業の改善策は?

A) 自社農場における効率化を進める。生産性の向上等重点的に取り組んでいく。

Q) 今後の国内食肉相場に関してどのように見ているのか?

A) 現状の相場水準が継続すると見ている。但し、下期にかけて輸入食肉を中心に昨年を下回るように見ている。

<加工事業>

Q) コンシューマ・業務用の販売状況は?

A)

コンシューマ：ハム・ソーセージは、森の薫りあらびきウィンナーを中心に販売が回復している。

デリ商品は、中華名菜と石窯工房を中心に新商品の効果が出ている。

業務用：商談を強化しており、下期より数量回復の見込み。

Q) 加工事業本部のコスト改善効果の状況は?

A) 製造ラインの整理、品種削減等から効果が出てきている。下期に向けての数量回復で更に収益改善すると見ている。